陳 情 文 書 表 (2 2 - 3 - その 1)

- 1 受理番号 陳情第7号 令和4年8月22日受理
- 2 件 名 ナラ枯れ病防除策の推進を求める陳情書
- 3 陳 情 者 住 所 君津市君津台1-3-3
氏 名 坂井 昭

4 趣 旨

「ナラ枯れ」もしくは「ナラ枯れ病」という言葉をご存じでしょうか。それらの語は、カシノナガキクイムシという昆虫が媒介となって、ナラ菌がナラ類、シイ、カシ類などの樹幹内に入り、わずか2、3か月程度のうちに樹木の葉が一斉に赤茶色に変色して急速に枯死する病気のことです。カシノナガキクイムシは樹齢40～50年以上、直径30cm以上の老木に潜入することを好むと言われています。これは昔から存在していた病害ですが、かつて薪炭林とされた樹木は、樹齢20年前後で伐採されたという事情があったため、被害例は稀で、大きな社会問題とはなりませんでした。

しかし、昭和20年代以降、家庭の台所の炊事や風呂を沸かすための燃料が、ガスや石油、電気を取って代わると、それらの樹木が伐採されないまま年輪を重ねるという時代を迎えるようになりました。一方、君津市の東京湾寄りの人見地区や坂田地区の山（丘陵）は、ノリヒビ（海苔簀）と薪燃料用としてマテバシイ（ブナ科マテバシイ属。俗称トウジイ）を広く植林してきたという特殊な歴史があります。けれども、海苔養殖をやめてから60年前後の年月がたち、それらの地区の山々では、今ではきわめて大木のマテバシイの樹木が数多く見られるようになっていきます。

私が実家の裏山（君津市坂田1585番地）の樹木の1つがナラ枯れ病に罹ったと造園業者から言われたのは2年前の令和2年夏のさなかでした。その後、今年から裏山の西側で急拡大し、新たに4、5本程度が赤茶色になって枯れるという状態になりました。ナラ枯れ病で枯死した樹木を放置しておけばカシノナガキクイムシが増殖し、ほかの樹木に潜入していきます。道路に面したところでは倒木の危険もあります。枯死した樹木を撤去するには1本あたり数十万円～100万円以上の費用がかかると思われます。ナラ枯れ病が発生した山林の持ち主の困惑と悩みは、きわめて深刻なものがあります。

君津市内小糸川流域でのナラ枯れ病の被害の状況を調べてみました。現在、坂田地区と君津台地区の境の山林・丘陵の南西側が最も被害が顕著です。ほかに君津台1丁目と木更津市畑沢南6丁目の境の山林でも見られます。さらに水道山（君津市久保山配水池）の山林の南側や北子安小学校入口と校舎を取り巻く山林でも被害がありました。また、君津市民文化ホール西側の法木作の山林の一部、貞元地区では上湯江の山林に多く見られ、貞元、郡の山林の一部でも見られています。小糸地区から清和地区にかけては被害は見られておらず、現在は市街地の山林にのみ目立っていますが、今後は内陸部や市街地の都市型の公園の樹木や寺院・神社の境内の樹木にまで感染の広がりを見せると推定され、行政の対応も急がれると思われます。どうか、ナラ枯れ病への原因究明、伐採・撤去にかかる費用負担の方法、今後の予防策など早急の対応をお願いいたしたく、ここに陳情いたします。

- 5 付託委員会 建設経済常任委員会